

中1ギャップ

東京都スクールカウンセラー（臨床心理士） 金屋光彦

1 中1ギャップと不登校の推移

みなさんは、「中1ギャップ」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？

平成17年に新潟県教育委員会が発表した調査をきっかけに、数年前からこの「中1ギャップ」の問題がクローズアップされてきています。

私の勤務する中学校でも、管轄下の4つの小学校の保護者対象に、毎年合同保健委員会が開催され、この中1ギャップが3年続けてメインテーマになっています。そこでの講演会では今年も保護者約130名が、メモをとりながら熱心に耳を傾けてくださいました。

この中1ギャップとは何か？ それを端的に示すのが、不登校の推移です。

平成23年度不登校の出現率は、小学校では0.3%、304人に1人の割合でした。しかし、中学校になると2.6%、実に38人に1人の割合に急上昇します。特に小6における全国の公立私立合わせた不登校児童が7,722人だったのが、中1になると21,895人になり、一挙に約3倍に急増しています。これは、ここ数年同じような傾向を示しています。

このように、小学校から中学校へ進学する際に、その環境の違い、すなわちギャップにショックを受けて、不登校ははじめさまざまな不適応行動が生じる、それが中1ギャップです。

具体的には、中学校に進むと他の小学校から新しいクラスメートが加わったり、次々と教科ごとに違う先生が教え、その内容もより高度になります。また、部活動が本格的に始まり、先輩たちとの上下関係の厳しさも味わいます。このとき最上級生だった彼らが最下級生となり、2、3年生との複雑な服従関係が、中1ギャップ現象の中でも大きな要因として指摘されます。

2 中1ギャップに陥りやすいタイプ

これらの体験は、将来の自立した職業人になるには、必要なものです。その試練を乗り越えていくことが期待されるのですが、あるタイプにおいては、その過程に耐えられず、ついていけなくなるのです。中1ギャップに陥りやすいタイプには、次の2つがあげられます。

第一は、対人関係苦手タイプ。6年間一緒に過ごしてきた級友や担任教師のサポートを得て、不登校にならずに小6まで過ごしてきたタイプです。これが中学校だと一変し

ます。見知らぬ級友の増加や、ほとんどの教科を担当が教えていた小学校の担任愛着システムから、教科担当別になります。匿名性が強くなる中学校では、より主体性が求められます。そのギャップに戸惑い苛立ち、それがストレスとなって、次第に疲弊して不登校となるのです。

第二のタイプは、リーダータイプです。今まで最高学年生として、学業やスポーツや行事等において、リーダーや中心選手として活躍できた数々のステージを失います。それによって、個性発揮や自己実現が困難になり、やがて自信を失い、不登校や問題行動を示していくのです。

3 中1ギャップの背景と思春期

この環境の大きな変化に加え、発達ステージが大きく変わることも一因です。安定していた学童期から、疾風怒涛の時代といわれる思春期に突入するのがそれです。

この思春期を、フランスの啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーは「人は二度生まれる。一度は存在のために、二度目は本当に生きるために」と称しました。また、イギリスの児童精神科医のウィニコットは「混乱を混乱としてひたすら生きぬく時代、それが思春期である」と語っています。

思春期の心は、自分の主人は自分だと主張してきます。人から支配されるような言動には、過敏なほど拒絶します。中学生の一番嫌いな言葉は、「勉強しなさい」という命令です。「あんなによい子が、口答えばかり」と親は嘆きます。また、「今日誰と何してたの？」と聞くやいなや「うるせー、どこで何するか俺の勝手だろう！」との怒鳴り声。何でも親に話してくれた、あの可愛く素直なわが子は、一体どこへ行ってしまったのだろうか…？ そう親は戸惑いうろたえるのが、この思春期なのです。

この「口答えという逆らい」と「隠し事という秘密」の2つは、発達レベルから見ると共に望ましい現象です。子どもがどんどん離れるこの思春期は、親にとっても辛くさびしい季節ですが、彼らの反抗的態度は、親を嫌っているからではなく、彼らの中のDNAが、そうさせていると考えたらよいでしょう。

子どもは授かりもの、と昔からいいますが、今のお母さんには、支配しうる私のもの、との意識を強く感じます。ここは、自らの心の安定のためにも切り替えて、「見捨てないけどかまわない」の精神で、距離を置きつつ見守ってほしいと、強く願うのです。